

平成 16 年 2 月 10 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

チモール海共同石油開発地域 (JPDA) バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田における
コンデンセートの生産開始について

国際石油開発 (株) (インペックス) は、同社の 100%子会社であるサウル石油 (株) を通じて事業を推進している、豪州と東チモールの中間に位置するチモール海共同石油開発地域 (JPDA) 内のバユ・ウンダン ガス・コンデンセート田において、これまで開発作業を推進してきたが、この度 2 月 10 日よりコンデンセートの生産を開始したことを発表した。

同ガス・コンデンセート田の開発プロジェクトは 2 段階に分けられており、第 1 フェーズではまずコンデンセート及び LPG (まとめてリキッドという) の生産を行い、一方、リキッド抽出後の天然ガスは再度地下へ圧入される。なお、生産施設は、日産 115,000 バレルのリキッド生産、日産 9 億 5,000 万立方フィートのガス再圧入、の処理能力を有することになり、リキッドは本年 12 月には日産 87,000 バレルに到達する見込みである。

また、第 2 フェーズでは、リキッドに加え、天然ガスの生産を開始する予定である。生産された天然ガスは、2002 年に本邦需要家である東京電力 (株) 及び東京ガス (株) との間で基本合意された LNG 販売契約に基づき、豪州ダーウィンに建設中の LNG プラントへと輸送され、2006 年以降 17 年間に亘り年間 300 万トンの LNG として販売されることとなっている。

なお、第 2 フェーズの LNG 生産・販売プロジェクトに関し、豪州ダーウィンまでの海底パイプラインおよびダーウィン郊外に建設される LNG プラントそれぞれに、同社の 100%子会社 (豪州法人) である INPEX DLNGPL Pty Ltd を通じ、上流権益比率と同率で参画し、事業を推進している。

バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田の可採埋蔵量は、リキッド分が約 4 億バレル、天然ガスが約 3.4 兆立方フィート、PSC 契約の JPDA03-12 鉱区と JPDA03-13 鉱区にまたがる、巨大ガス・コンデンセート田である。

※) 補足説明

1.本ガス・コンデンセート田は、東チモール及びオーストラリア間に位置する生産分与契約区域（JPDA03-12、03-13）にまたがっており、水深 80m、オーストラリア Darwin の北西 500km の地点に位置する。

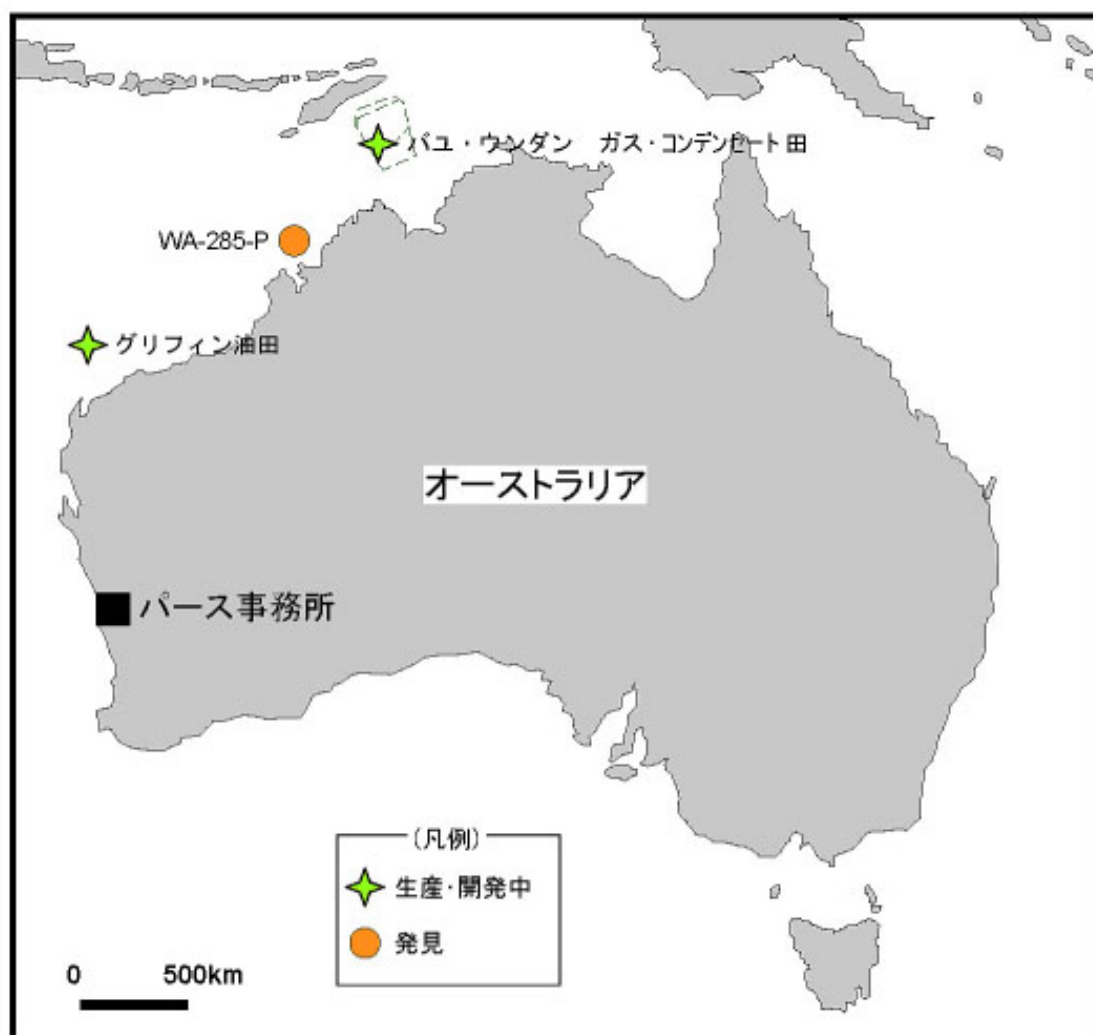
2.サウル石油㈱は、国際石油開発㈱の 100%子会社（資本金：46 億円）であり、JPDA03-12 鉱区に 19.07%の権益を保有しており、また、同鉱区と隣接する JPDA03-13 鉱区に跨って存在するバユ・ウンダン ガス・コンデンセート田に対しては、10.53%（CONOCOPHILLIPS 社(オペレーター)56.72%、Eni-Agip 社12.04%、Santos 社10.64%、東京電力（株）・東京ガス（株）10.08%）の権益を保有している。

3.JPDA03-12 鉱区では、現在、エラン・カトゥア・カトゥアノース油田から日産 4,800 バレル（昨年 12 月末現在、累計 2,822 万バレル）の原油を生産している。

4.当社は豪州をインドネシアとならぶコアエリアとし、子会社を通じて、積極的な事業展開を行っている。

- ・ アルファ石油(株)を通じて 1994 年より西オーストラリア州沖合のグリフィン油田において原油生産（昨年 12 月末現在、日産 11,000 バレル、累計 1 億 5,247 万バレル）。

- ・ インペックスの豪州オペレーター事業としてはインペックス西豪州ブラウズ石油㈱(インペックス 100%出資子会社)を通じ、事業権益を 100%保有する西豪州北西大陸棚 WA-285-P 鉱区において既に、試掘 3 坑の成功によって、有望なガス・コンデンセート田を発見しており、2003 年第 2 四半期より評価井を含めた 3 坑からなる第 2 次掘削キャンペーンを実施中である。



JPDA(チモール海共同石油開発地域)
バユ・ウندان ガスコンデンセート田拡大図

